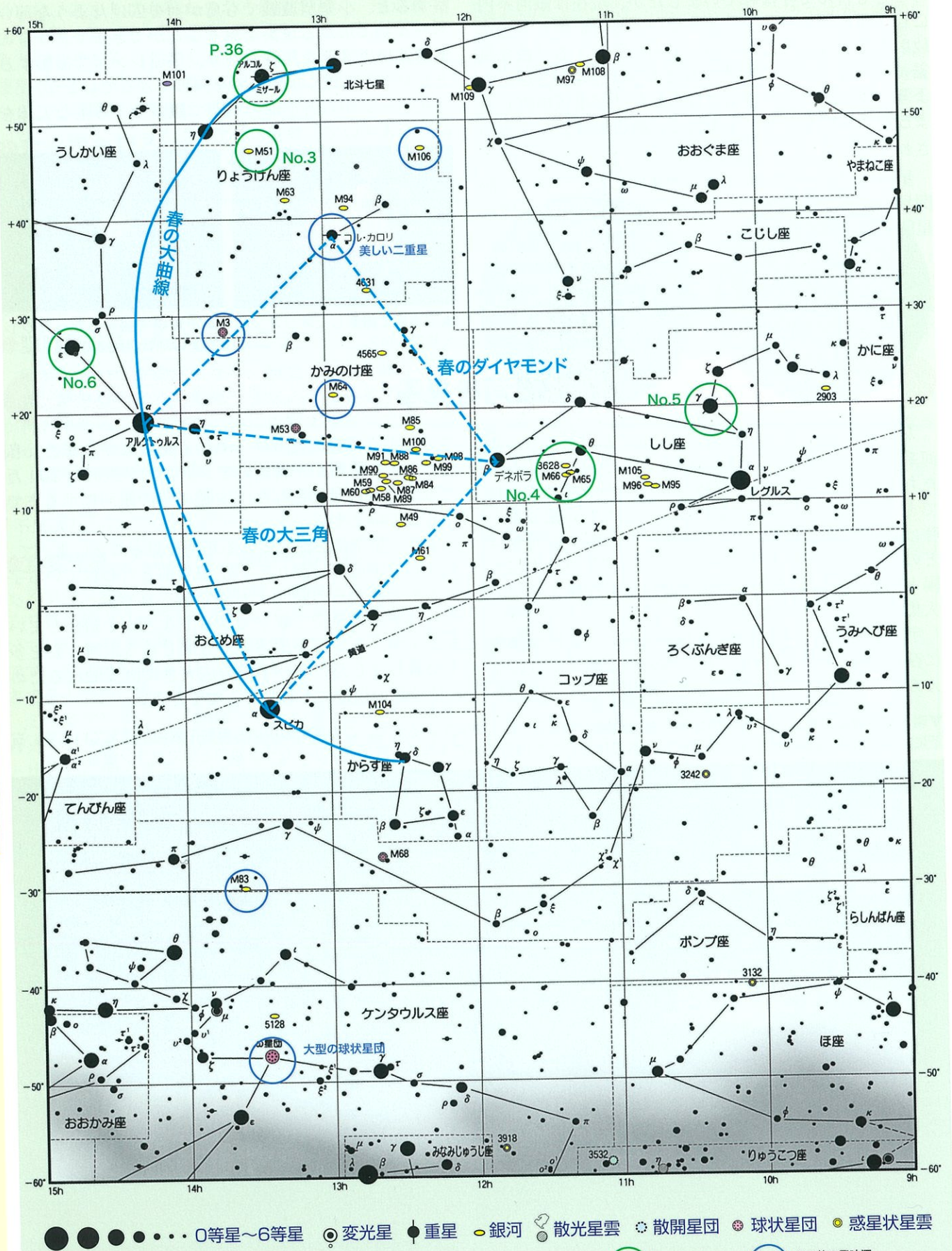
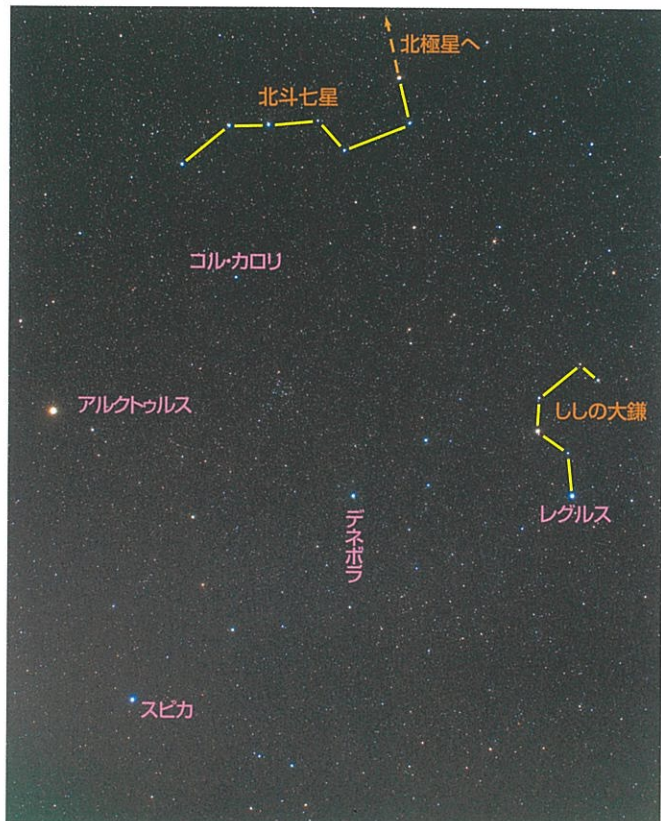


# 春の星空散歩

## 星空ガイドマップ







●かに座のプレセペ星団 M44 (P.44/No.1)  
肉眼では月の無い夜にぼんやりとした星雲が見えます。双眼鏡で観察するのにちょうど良い大きさで、双眼鏡ではたくさんの星が輝く星団であることがわかります。



●おおぐま座の M81 と M82 (P.46/No.2)  
低倍率の望遠鏡の視野の中に丸みをおびた銀河 (M81) と細長い銀河 (M82) が並んで見えます。口径 20cm 以上の大きな望遠鏡で観察すると、M81 の渦巻き構造や M82 の周辺部分が不規則にギザギザに見えることに気づくでしょう。



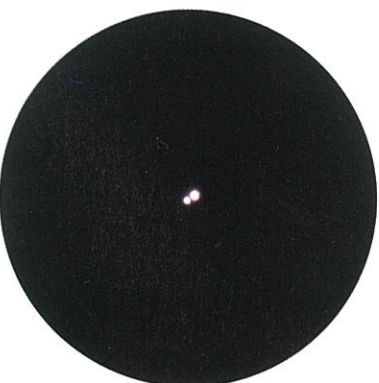
●りょうけん座の子もち銀河 M51 (No.3)  
大小ふたつの銀河が寄り添うように見えることから「子もち銀河」と名づけられました。この後 2 つの銀河は衝突する運命にあります。今は渦巻き状の構造がよく見えますが、衝突後は大きく形が崩れてしまうことでしょう。

●りょうけん座の子もち銀河 M51 (スケッチ)  
20cm 反射望遠鏡によるスケッチです。市街地を離れ、星空が澄んだ場所であれば、10cm 以上の口径の望遠鏡で M51 の渦巻き構造と脇の小さな銀河がつながっているようすを観察できます。



●しし座の銀河 M65・M66・NGC3628 (No.4)  
しし座の後ろ足付け根近くでひとかたまりになっている銀河です。銀河は平均すると、1000 億個の恒星の大集団ですから、視野内に 3000 億個の恒星が存在することになります。

●しし座の銀河 M65・M66・NGC3628 (スケッチ)  
低倍率にすると 3 つの銀河が同一視野内にすっぽり入ります。NGC3628 がやや淡いので、小口径では十分に暗闇に眼をならしてから観察してみてください。



●しし座の  $\gamma$  星 (No.5)  
しし座の首の付け根にある星を望遠鏡でのぞくと、2 つの星に分かれて見えます。2.1 等と 3.4 等の星が 620 年の周期でめぐり合っている連星です。

●うしかい座の  $\epsilon$  星 (イラスト) (No.6)  
美しい色の連星です。主星は 2.5 等級でオレンジ色、伴星は 5 等級の青色です。両星の離角は 2.8 秒で光度差があるので、分離して見るにはやや大きい口径の望遠鏡で倍率を上げる必要があります。

